

腕のブツブツが目立ってきました

毛孔性苔癬(もうこうせいいたいせん)かもしれません

中野皮膚科クリニック

<http://www.nakano-derma.com/>

毛孔性苔癬(もうこうせいいたいせん)は二の腕から肘にかけて、軽いかゆみなどにブツブツとした丘疹ができる皮膚疾患です。詳しい症状や治療法については、日本皮膚科学会皮膚科専門医、中野皮膚科クリニック院長の松尾光馬先生に聞きました。

「この疾患は、小学生から思春期にかけて多く発症します。また、素入り軟膏を処方します。尿素やサルチル酸には、皮膚の角質を除去する効果があります。また、かゆみなどがある場合はステロイド剤やヒタミシD3で炎症を抑えます。妊娠の可能性がない場合はヒタミシAの内服薬を処方することもあります。」

「そのままにしていって重篤な状態にはなりません。ザラツキが目立って気になるようなら皮膚科を受診しましょう。治療には外用薬として、」

「どの世代で発症しやうとしてもあります。二の腕から肩、背中、太ももの前後、ひざ、すねの前面などに出やすいです。」

「この疾患は、小学生から思春期にかけて多く発症します。また、素入り軟膏を処方します。尿素やサルチル酸には、皮膚の角質を除去する効果があります。また、かゆみなどがある場合はステロイド剤やヒタミシD3で炎症を抑えます。妊娠の可能性がない場合はヒタミシAの内服薬を処方することもあります。」

「この疾患は、小学生から思春期にかけて多く発症します。また、素入り軟膏を処方します。尿素やサルチル酸には、皮膚の角質を除去する効果があります。また、かゆみなどがある場合はステロイド剤やヒタミシD3で炎症を抑えます。妊娠の可能性がない場合はヒタミシAの内服薬を処方することもあります。」

「この疾患は、小学生から思春期にかけて多く発症します。また、素入り軟膏を処方します。尿素やサルチル酸には、皮膚の角質を除去する効果があります。また、かゆみなどがある場合はステロイド剤やヒタミシD3で炎症を抑えます。妊娠の可能性がない場合はヒタミシAの内服薬を処方することもあります。」



治療中の注意は？

「乾燥する秋冬は悪化しやすいので、発症している部分を外用薬で保湿しましょう。」

「乾燥する秋冬は悪化しやすいので、発症している部分を外用薬で保湿しましょう。」

中野皮膚科クリニック  
(マルニビル5階)



問い合わせ

中野皮膚科クリニック

中野区中野2-30-3、マルニビル5階。中野駅南口徒歩2分

☎03-5342-0722

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30 ~ 13:00	○	○	○	○	○	○
15:00 ~ 19:00	○	○	○	○	○	17:00 まで受付

休診日:日曜、祝日

院長:松尾光馬 日本皮膚科学会皮膚科専門医、医学博士。東京慈恵会医科大学医学部卒業、同大附属病院皮膚科非常勤講師

2015年11月28日付 「リビング東京副都心」に掲載されました